

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、生涯にわたり主体的に学び続ける人間性豊かな児童の育成を図る。そこで、知・徳・体の調和と統一のとれた児童、広く国際社会に貢献できる社会人となるための基礎を身に付けた児童、将来の選択肢に幅広い可能性をもつ児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。
 ○よく考え進んで行動する子 ○思いやりのある子 ○からだをきたえる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎明るく楽しく安全な学校 ○児童一人一人の人権を尊重し大切にす学校 ○授業改善、研究、研修に力を入れる学校 ○保護者や地域から信頼され、協力、支援される学校
○児童・生徒像	○よく考え進んで行動する子…すすんで学習し、学び方や考え方を身につけ自らの力で課題を解決する児童 ○思いやりのある子…時と場に応じた挨拶や返事ができ、礼儀正しく明るく思いやりの心を持ち、お互いの気持ちを考えながら共に励まし合い助け合う児童 ○体をきたえる子…進んで運動し健康に気を付けながら、たくましく活力のある生活を営む児童
○教師像	○児童の健全育成に全力を注ぎ、児童に敬愛され、保護者・地域に信頼される教師 ○授業改善に努め、新しいことにチャレンジし、充実した授業を展開する教師 ○児童理解に努め、児童と正面から向き合える教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

《学校の現状》

- コロナ禍で学校生活が制限される中、学習面でも生活面でもできることを精一杯している。マスク着用の生活の中ではあるが、校内外で挨拶などしっかりできている児童が多い。学習用具の忘れや宿題忘れをする児童が固定化されつつあり、担任からの指導の強化や保護者との連携をより図っていく必要がある。
- 教職員は教材研究・授業や行事の打ち合わせ等を熱心に行い、足立スタンダードをもとに問題解決型学習を中心に児童一人一人に応じた指導を心がけている。30名の教員のうち、経験が自校のみの教員も三分の一いるが、お互いに協力を惜しまず、児童に正対しまじめに取り組んでいる。
- 区学力調査では、通過率が4月（国語81.3%、算数86.0%）9月（国語91.5%、算数89.8%）1月（国語94.3%、算数91.2%）であった。

《前年度の成果と課題》

- 基礎的・基本的な学習内容の定着
 学校生活が制限される中、「平野スキルアップタイム」や補習教室によって、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ってきた。また、学習内容の理解に時間がかかる3、4年児童にはそだち指導を、区の学力調査で目標値に達しない児童に対しては夏休み、冬休み、春休みに補充教室を実施してきた。その結果通過率は区の平均を上回り、中位、下位層の基礎基本の定着度の底上げができてきた。今年度も理解できない内容をそのままにせず、放課後補習等を継続し、さらなる基礎学力の定着を目指す。若手教員が多いので授業力・指導力の向上が必要である。教科指導専門員による指導を真摯に受け止め、授業改善に努めさせる。家庭学習に一定時間取り組む児童が増えてきた。AIドリルを使った宿題や自学等家庭学習の習慣をさらに定着させる。地域の環境や自然・人を活用した学習や体験活動をさらに充実させる。また、全児童に貸与されているタブレット端末を学びの道具として、より個に応じた主体的な学習に取り組めるよう引き続き有効活用していくとともに、情報モラルについても併せて指導をしていく。

○心の教育の充実

年間を通して挨拶について指導してきた結果、朝の挨拶や廊下等での挨拶はかなりできるようになってきた。開かれた学校運営協議委員の方たちによる授業診断での評価でも挨拶についての評価が高い。保護者の学校評価では、「子供は明るく元気に学校生活を送っている」の肯定的評価が94%であるが、年3回調査しているいじめアンケートでは「いやなことを言われる」「無視される」などの記述も見られる。早期発見・早期解決に努めているが、油断せず見守るとともに道徳の授業を充実させ、親切、思いやり、生命の尊さ、友情、信頼等を重点にして指導していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな人間性の育成	○	○	○	○	○
3	家庭・地域との連携	○	○	○	○	○
4						

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
児童一人一人の基礎学力の定着、思考力・表現力の向上		年度当初－85% 1月－90% 2月現学年－75%	年度当初-国語 86.9%算数 88.5% 1月国語 92.5%算数 93.4% 2月現学年—国語 79.%算数 80%		4月実施の区調査で国算ともに85%を上回り、1月時点で国算ともに90%を上回った。2月の現学年の内容の調査は国語79%算数80%の通過率で、達成基準を上回ることができた。			◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	スキルアップ タイム	全児童 国語 算数	毎日5校 時始業 前15分 (B時 程・土曜 授業日 等除く)	担任が、AIドリル、次への ステップ、東京ベーシックド リル、漢字・計算プリント等 を活用して、漢字・計算の基 礎を身に付けさせ、学力を定 着させ、弱点を克服する。	全校で共通し たワークテ ストを活用し成 績ファイルで 確認する	国語と算数のワ ークテストの平 均点85点以上 2月の現学年調 査は目標値の通 過率75%	共通のワークテスト (国・算)平均点 ※12月末時点 国語81.8 算数80.8 2月の現学年調査 国語79%算数80%	単元別ワークテスト の平均点は目標に届 かなかったものの、 毎日5校時前の15分 を活用してAIドリル やプリント学習によ る基礎基本の学習の 習慣を身に付けた。	○
2 継続	放課後補充 教室	全学年 目標値に 達してい ない児童 国語 算数	毎日 (月別 に学年 を指定)	専科、学習支援ボラン ティアが漢字・計算 プリント等を活用し て、つまづきをさか のぼり、少人数指導 を行う。反復して学 習させることで基 礎学力の定着を図 る。	学力調査の再 調査(全児童) 9月・1月実 施・現学年調 査2月実施	学力調査の再調 査通過率90% 2月現学年調 査通過率75%	9月再調査通過率 国語-93.9% 算数-92.2% 1月再調査通過率 国語-92.5% 算数-93.4% 2月現学年調査 国語79%算数80%	月毎に対象学年の児 童を決め、未通過児 童と、つまづきの見 られる児童を対象に 既習内容の復習をさ せ基礎基本の定着を 図った。	○
3 継続	長期休業期 間中の補充 教室	全学年 国語 算数	夏休み 10日 冬休み 2日間	全教員と学習支援ボ ランティアがAIド リル、漢字・計算 プリント、学力調査 過去問題・類似問 題、東京ベーシッ クドリル、次へのス テップ等を活用し て、学力調査で目 標値に達しなかつ た児童や担任が気 になる児童を中心 に問題を解き直し たり、補充問題に 取り組んだりする ことで、基礎学力 の定着を図る。	学力調査の再 調査(全児童 対象)9月・1 月実施	学力調査の再調 査(9月・1月) 通過率90%	9月再調査通過率 国語-93.9% 算数-92.2% 1月再調査通過率 国語-92.5% 算数-93.4%	夏季休業中の補充 教室を10間、冬季 休業中に2日間実 施した。各長期休 業までの学習の内 容の補充と復習を 全教員体制で実 施した。	○

4 継続	読書活動の 推進	国語 全児童	読書記録は年間を通じて取り組む。毎週水曜日の朝読書読書旬間-6月読書月間-10月	毎日の生活の中で読書の時間を確保し、読書に親しみ、考える力や想像力を育む。 ・読書記録への記入 ・図書委員会による本の紹介 ・教師による読み聞かせと本の紹介 ・読書旬間-低学年20冊、高学年500ページ ・読書月間-低学年40冊、高学年1000ページ ・年間読書冊数の目標を各学年ごとに設定する。	読書記録で確認する。 読書旬間、読書月間の目標達成者は校長室に報告に来る。	読書旬間(6月)読書月間(10月)の目標ページ数・目標冊数について8割達成	毎週水曜日の朝読書6月の読書旬間、10月の読書月間を計画通りに実施できた。教師による読み聞かせを10月の読書月間に2回行った。	朝読書で担任も一緒に静かに本を読む取組、読書旬間や読書月間を来年度も継続させる上で、学年相応の内容の本を読む指導が必要である。コロナ禍で中止していた図書ボランティアの活動も再開すべく保護者に募っていく。	○
5 継続	俳句コンクール	国語 全児童	6月 10月	身近な生活の中で感じたことや自然現象などを、短い言葉で表現することにより、物事を見つめる目を養い、豊かな感性を養う。 ・俳句コンクール(6月・10月)・校長室前に投句箱を設置し年間を通して校長俳句会を実施。 ・外部の俳句大会にも応募	各学級の廊下で俳句作品展優秀作品の紹介。	5・7・5のリズムで季語を用いた俳句を全員が作る。	・計画通りに6月と10月に校内俳句コンクールを実施した。	・企業の俳句コンクールに応募し佳作作品としてパッケージに掲載されるなど俳句に関心をもつ児童が見られる。学校だよりも掲載するなどより広く児童の作品を紹介していく。	○
6 継続	百人一首旬間	国語 全児童	7月 12月	小倉百人一首、五色百人一首を使用し日本の伝統文化である百人一首に親しみ、古語の響きの良さに気付かせる。	百人一首暗唱カード	各学年で20首ずつ覚える。	20首以上暗記人数 7月-83名 12月-134名	・6月よりも12月の取組で達成者が増加した。しかし、他の行事と同じ時期の実施になったため、取組が十分ではなかったという反省が出た。来年度の取組の在り方を再考していく。	○

7 継続	「学年別家庭での自主学習」の発行	全児童 全教職員 に発行	4月に配布	保護者会資料として配布し、家庭にも学力向上への取り組みに理解し協力していただく。 全校で毎日、AIドリルをはじめ漢字、算数、音読の宿題を出すように共通理解し、未提出の児童は、その日の内に放課後等の時間を使って終わらせる。	宿題提出簿 家庭生活調べ	宿題提出率 100%	AIドリルをはじめ、漢字・音読等を各学級で毎日家庭学習として課題を出した。提出率は各学級90%以上である。未提出児童は固定され、その日のうちに休み時間や放課後に取り組みさせた。	・家庭により協力体制に大きな差があるのが現状である。保護者会や個人面談で家庭での学力向上への協力をお願いしていく必要がある。	○
8 継続	授業力・指導力の向上	全教科 全教職員	年間を通じて	<ul style="list-style-type: none"> ・年間8回の小中連携 ・全教職員による教科別分科会と授業研究を実施 ・区や都の研修会への参加、のべ100回以上。 ・週案簿に計画を位置づけてICTを活用した授業をする。 	研究会参加。 区や都の分掌に関わる命令研修以外に研修へ参加。	全体会2回、 授業研究6回 一人4回以上研修会に参加。 担任全員が週3日以上ICTを活用。	<ul style="list-style-type: none"> ・東栗原小、東島根中との小中連携による授業力・指導力向上のための校内研究において、分科会3回実施 授業研究3回実施 ・区小研各部会への参加率90% ・区や都への研修会への参加のべ90回 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画通り年間8回の小中連携を実施した。分科会ではリモートで行うなど実施方法を工夫しながら進めた。 ・区小研や都の専門性向上研修など夏季休業中を利用して自主的に研修へ参加した。 	○

9 継続	足立スタンダードに基づいた授業展開、校内での共通理解に基づいた指導体制	全教職員 全児童	年間を通じて	<p>足立スタンダードに基づいた授業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・系統立てて学年別にノートを選定し、低学年は、マス黒板を使って指導する。 ・ワークテスト（国・算）を全校で統一し、成績入力方法を統一し、経年比較ができるようにする。 ・漢字の速習（全学年1月までに当該学年で学習する漢字の指導を終え、以降は既習漢字の総復習を行う） 	<p>管理職、教科指導専門員による授業観察。</p> <p>ワークテストの経年比較データの活用。</p>	<p>全教職員が本時のめあてとまとめを意識し、足立スタンダードに基づいた授業を展開する。</p>	<p>足立スタンダードに基づいた授業展開について各教科主任によるOJTを実施した。それにより若手教員や他区から異動した教員の足立スタンダードに対する理解につながった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導専門員による若手教員への継続的な指導により「めあて」から「まとめ」まで1単位時間の授業のスタイルが身についた。 ・漢字の速習は児童の実態によっては、時間をかけ丁寧に指導した方が効果的な場合もあり、要検討である。 	○
---------	-------------------------------------	-------------	--------	--	--	--	---	---	---

重点的な取組事項－2		豊かな人間性の育成		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
様々な人との関わりを通して思いやりの心を育成する	学校評価項目、子供は、明るく元気に学校生活を送っている 90%以上の肯定的評価	学校評価アンケートで 94.4%の肯定的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動や異学年活動、通常級と固定級の交流授業等を通じて人とのかかわりの中で相手を思いやる心を育成できた。登校しぶりや不登校傾向の児童は0ではないので、今後もより具体的な手立てを講じていく。 	◎

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
縦割り班活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り班遊び年 15 回 縦割り班給食年 2 回 縦割り班集会年 2 回 	<ul style="list-style-type: none"> 土曜授業日のある週の中休みを縦割り班遊びの日に設定し土曜授業日の中休みを 30 分間にして縦割り班遊びを十分とる。 給食部、特別活動部の年間計画の中に縦割り班活動を明確に位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> 異学年による縦割り班遊びを通じて、上級生は下級生の世話をし、下級生は上級生の指示に従って行動するといった、望ましい上下関係を経験させることができた。 縦割り班であいさつ運動を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止の観点から今年度も縦割り班による交流給食は実施しなかった。 縦割り班活動をより充実させるために事前の打ち合わせや活動後の振り返りの在り方に改善の余地がある。また、学校評価で土曜授業の日の縦割り班遊びについては、時間的なゆとりがもてないことから改善の意見があり見直す方向で進める。 	○
幼稚園、保育園、中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> 児童・園児・生徒の交流 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の見学、1 年生との交流や保育体験をする。 学校図書館の利用や読み聞かせ体験をする。 中学校での授業体験と部活動体験をする。 長期休業中の小学校の学習教室等に中学生が〇付けボランティアとして参加する。 	<p>〈幼保小連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に保育園へ訪問して保育参観を行った。年長園児が学校で体験給食を行った。 展覧会で近隣の保育園・幼稚園の園児が制作した作品を展示した。 <p>〈小中連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 6 年生が中学校の体験授業と部活動体験を行った。 夏季休業中の補充教室に中学生が〇付けボランティアを行った。 	<p>〈幼保小連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中の保育参観、園児対象の体験給食、年長児と 1 年生との交流活動、展覧会で園児の作品を展示した間接交流など、多くの連携ができた。 <p>〈小中連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 6 年生の体験授業と部活動体験、中学生による〇付けボランティアと職場体験等有意義な交流ができた。 	◎

<p>道徳の授業の充実</p>	<p>・道徳の授業の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の年間指導計画に重点として、親切、思いやり、生命の尊さ、友情、信頼等を位置づける。 ・いじめ防止を視点とした授業を1回以上行う。 ・年間計画に基づく確実な実施をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全学級でいじめ防止のための授業を実施し、思いやりや人権について考える機会を道徳の授業の中でつくった。 ・人権教育の一環として、道徳授業地区公開講座で出前授業を実施し、発達段階に応じて人権について考える取組を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動を通して他人とのかかわり、自他の尊重を中心に心の育成を行ってきた。いじめ防止のための授業を全学級で実施したり、適切なタイミングを計って全校朝会で校長講話の中で、友達との関わりについてやいじめについての話をしたりして、児童に自分自身のこととして考える機会を意図的に設けてきた。 ・いじめと思われる事案や児童同士のトラブルに対して引き続き、未然防止のため道徳の授業を柱に今後も全教育活動を通して大切にしている。 	<p>○</p>
<p>特別支援学級と通常学級の交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校行事で各学年の通常級と一緒に活動する ・固定級の担任による特別授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会等の学校行事において通常級と同じ活動を行う。 ・9月に固定級担任による特別支援学級児童の特性について通常級の児童へ授業を行い。理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や社会科見学等の学校行事において通常級と固定級の児童と一緒に活動し学習する交流活動を行った。 ・9月に固定級の担任が全学年の通常級の児童に知的障がいのある児童について理解啓発の特別授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・固定級の担任が通常級の全学級で知的障がいのある児童の特性と、関わり方等についての特別授業を行ったり、固定級の児童と通常級の児童が交流したりする機会を大切にしてきた。 	<p>◎</p>

<p>挨拶運動等の推進と校内での名札着用の徹底</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価項目、子供は家庭や学校でよく挨拶をしている 90% 名札着用率 100% 	<ul style="list-style-type: none"> 朝と帰りだけでなく日中の挨拶について強化する。 各学級で名札着用の確認をし、週末に着用率を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価項目「生活規律」の挨拶について肯定的評価 93.3%年間を通して登校時のあいさつ運動を縦割り班で当番ごとに行った。 校内での名札着用は 90%の児童に定着が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくり協議会の方や保護者のアンケートからも挨拶を校内外でよくしてくれるという評価をいただいた。とてもよい傾向であり来年度も挨拶を通して人とのかかわりを大切にできる児童を育成していきたい。 校内での名札の着用は、生活規律上大切なことの1つであると考え。学校経営の生活指導上の柱の1つとして来年度もより徹底させていく。 	<p>◎</p>
-----------------------------	---	---	--	--	----------

重点的な取組事項－3		家庭・地域との連携			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
<p>家庭・地域との連携を密にし、信頼される学校を目指す。</p>	<p>保護者の学校評価 10 項目において肯定的評価の平均 90%</p>	<p>「保護者地域と協力し様々な取組をしている」について 91.0%の肯定的評価であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の保護者の学校評価の意見を反映させ、土曜授業を年間を通して公開し、保護者や地域の方に子供たちの学校生活や学習の様子を見てもらう機会を増やしたことで、家庭・地域との連携について評価をいただいた。 	<p>○</p>	
B 目標実現に向けた取組み					

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
基本的な生活習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の学校評価10項目において肯定的評価の平均 90% 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者全体会・学校便り・専科便り・学年便り・学校ホームページ・学校説明会・PTA広報誌、校門前掲示板等で教育活動を発信していく。 生活調べの各月の結果を学年便りに掲載し、基本的な生活習慣の定着について保護者に啓発する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校だよりや学年だより等を通して学校の様子をわかりやすく伝えている」について 94.9%の肯定的評価であった。 毎月の学年だよりで基本的な生活習慣についての調査を掲載し家庭での協力と啓発をしてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> H&Sによる配信にしたことで、時間・場所を限らず閲覧できるよさが評価に現れたと考える。 生活調べの項目が児童の実態と合わない項目が見られるので改善の余地があると思われる。 	○
SDG's 環境教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> エコキャップ活動への参加 食育を通じた食料のムダの削減 	<ul style="list-style-type: none"> 学年便りや担任の呼びかけで、エコキャップ活動への意識を高める。回収量 100kg。 給食の残滓率 2.5%以下 	<ul style="list-style-type: none"> 校内3か所にエコキャップ回収ボックスを設置し、エコキャップの回収の呼びかけを推進した。回収量1月現在 86kg 給食残滓率1月現在 3.4% 	<ul style="list-style-type: none"> エコキャップの活動が形骸化している。SDG'sへの活動を見直していく。 給食の残滓率については、栄養士や食育担当の教員、給食委員会等がさらに連携を図りながら、もりもり給食ウィーク等とも関連させながら食料のムダの削減を目指していく。 	△

開かれた学校づくり協議会・学校運営協議会の活動の推進	・活動の活発化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を開かれた学校づくり協議会の運営委員会として位置づけ、各部の活動を明確化し年間計画の立案や進行管理をする。 ・土曜事業として漢字検定、着付け教室、そろばん教室、スポーツ教室等を計画・実施する。 ・農業体験部会で平野農園での作物栽培や稲作体験を計画・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開かれた学校づくり協議会による授業診断を毎月定期的を実施し授業を見ていただいた後に感想等を聞く時間を毎回設けた。毎回概ねよい評価をいただくことができた。 ・土曜事業ととして、漢字検定の補助やそろばん教室、浴衣の着付け教室を、家庭教育事業として保護者向けの「家庭教育講演会」を年2回開催した。農業体験事業として稲作体験、サツマイモ等の苗植えから収穫までを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に授業を見ていただき評価していただくことは、教員にとって励みとなった。 ・年度当初に運営委員会で各事業について計画した内容を概ね計画通りに実施することができた。開かれた学校づくり協議会の委員の方で毎回参加される方が固定されていることが課題である。 	○
----------------------------	---------	---	--	---	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

子どもたちの学力向上が大切であるという共通認識の上にたち、学力向上委員会が中心となって区の学力調査の結果を分析して指導に役立たほか、主要教科の足立スタンダードに沿った授業展開についての校内研修、スキルアップタイムの実施、算数補充教室の実施、AIドリル（キュービナ）を活用した学習などを通して学力の向上に向けて取り組んできた。特にスキルアップタイムは、昨年度まで放課後に行っていたものを、今年度より昼休みと5校時の間に15分間で取り組めるよう見直しを行い、継続的に基礎基本の定着の時間を設定した。また、小中連携による研究や校外での研修、5年目までの若手教員を対象とした教科指導専門員による指導等を通して、授業改善・指導方法の工夫に努めた。

4月の区の学力調査では、国語・算数ともに区の平均正答率を上回る結果となった。通過率も2科ともに区の平均を上回り、一定の成果は出ている。しかし、国語は文章問題で登場人物の心情や、文に即した読み取りが課題の一つであるため、毎週水曜日の朝の時間を「朝読書」の時間とし、読書をする習慣づけとともに、文に即した読み取りにつながるようにした。授業の中では学習課題の中心となる内容を考えさせる活動を重視したり、友だち同士で自分の考えを交流させたりする場を意図的に設定した。算数においても、文章題を読み取り立式することに課題が見られたため、四則計算の着実な定着はもとより、文意に沿った立式ができるようにスキルアップタイムや放課後補充教室も活用しながら定着を図ってきた。次年度においても、国語の読解を中心に文章を読んで、登場人物の心情やその移り変わりを読み取ったり、説明文では文に即して要点をつかんだりする力を育てていく。

本校の特色の一つである農業体験活動を通して、実際に体験しながら生き物を大切にしたり、環境について考えたり、地域の方と交流したりすることを通して豊かな心の育成を継続的に行ってきた。また、今年度より年間8回の土曜授業を公開とし、保護者や地域の方に授業を参観してもらう機会を増やした。出前授業や講演会をあてるなどして参加型の土曜授業となるように工夫した。次年度も保護者や地域・学校運営協議会、開かれた学校づくり協議会と連携し、外部の方々の協力を得て、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を重点に全教職員の共通理解のもとさらに充実した教育活動を推進していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

本校では、人権尊重の精神を基調とし、知・徳・体の調和のとれた児童、広く国際社会に貢献できる社会人となるための基礎を身に付けた児童、将来の選択肢に幅広い可能性をもつ児童の育成を目指すことが生涯にわたり主体的に学び続ける人間性豊かな大人になることに繋がると考え、教育活動を推進してまいりました。

学力向上については、一定の成果を上げることができ、生活面においても問題行動の未然防止と早期発見、早期対応に努めてきました。今年度も、保護者や地域の皆様から多大なるご理解とご協力をいただきながら学校運営を進めることができました。本当にありがとうございました。年末に皆様からいただきました学校評価やご意見を生かして、来年度も子供たちが生き生きと学校生活を送り、保護者や地域の皆様から信頼される学校となるよう教職員一丸となって努めてまいりますので、変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今年度は5月に新型コロナウイルスが第5類に移行して以降、保護者の皆様の多大なるご理解とご協力のもとで今年度の教育活動の内容をコロナ禍前に近い形で行うことができました。学校評価に挙げていただいた以外にも各ご家庭様々のご意見があると思います。500名を超える子供たちを預かる学校では、都や区の方針や区立小学校長会の意向等を考え合わせ、本校の子供たちの安全と安心を第一に考えて実施の方法を含めて判断してきました。来年度も、その時々状況に合わせ、子供たちの安全・安心を第一に考え教育活動を進めてまいります。どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。